

DX推進

株式会社釧路新聞社

2026.2.17

<経営ビジョン>

釧路新聞社は、創業以来一貫して「地域に根ざし、地域の声を伝える」ことが使命です。

新聞は、情報の伝達手段ばかりではなく、

政治、経済、暮らし、教育、文化、

そして未来をつなぐ社会基盤の一部です。

求められる情報や伝達方法は社会の変化とともに変わりますが、

釧路、根室地域の「今」を正しく伝え

「次世代へ地域の価値を継承する」ことが私たちの存在意義です。



<目指すビジネスモデル>

- 新聞を取り巻く環境は、少子高齢化や若年層の流出といった社会減に伴う人口減少、情報源の多様化による新聞離れ、さらには広告業界のデジタル化などにより、大きな転換期を迎えている。従来の紙媒体中心のビジネスモデルでは、成長はもとより、事業の維持すら困難な状況となりつつある。このような環境変化を踏まえ、デジタル技術を活用した事業構造の変革は不可欠であり、釧路新聞社を「地域のために進化し続ける情報メディア」として再構築することを目指す。
- 進化し続け、地域住民にとって真に価値ある情報を届けるため、紙媒体に加えてデジタルを活用したハイブリッド型の情報提供へ移行し、情報メディアとしての変革を図る。具体的には、速報性の向上など電子版の機能強化を行うとともに、新たなWebメディアの創出に取り組む。その実現に向けて、AI技術を積極的に活用し、多様性を確保しながら生産性を高め、より質の高い情報の提供を目指す。
- さらに、デジタル技術を活用し、地域と密接につながる各社員が、それぞれの視点で情報を収集・発信できる体制を構築する。あわせて、社員の負担軽減を目的にバックオフィス業務のデジタル化を進め、業務プロセスの変革を図る。また、これまで十分に活用されてこなかった地域記事や画像などの情報資産をデジタル化し、アーカイブとして整理・活用することで、その価値を最大限に引き出す。これらの情報を提供・共有する場として、新たに「地域の情報と人を結ぶ総合プラットフォーム」を構築し、地域にとって不可欠な情報インフラとして社会への貢献を目指す。

DX戦略・5つの柱・

ハイブリット型 情報メディアへの変革

紙とデジタルのハイブリット体制で”持続可能なメディアモデル”を確立する
デジタル・Web版を主力成長領域とし、速報性・検索性・利便性を強化する
記事の多媒体展開（紙・Web・SNS・動画）を標準化とする

編集・発信体制の 再構築

新たな情報価値の提供

過デジタル技術を活用し、記事の二次利用・商品化を図る
必要な情報を必要な人に届ける、有料コンテンツ・サブスクモデルを導入する
過去の記事をデータ資産化し、編集力、信頼性を源泉とする収益構造へ変革する

収益モデルの変革

オフィス業務の 効率化追求

バックオフィス業務（労務系・会計系）のデジタル化による生産性向上する
業務処理の標準化し、自動化ツールの積極的活用により業務変革を促す

デジタル化 自動化の推進

デジタル人材による 組織変革を推進

経営直轄のDX推進体制を整備し、生成AIを活用できる編集・営業体制構築
社員が持つ情報リソースをデジタル技術で共有・集約し発信する体制を構築

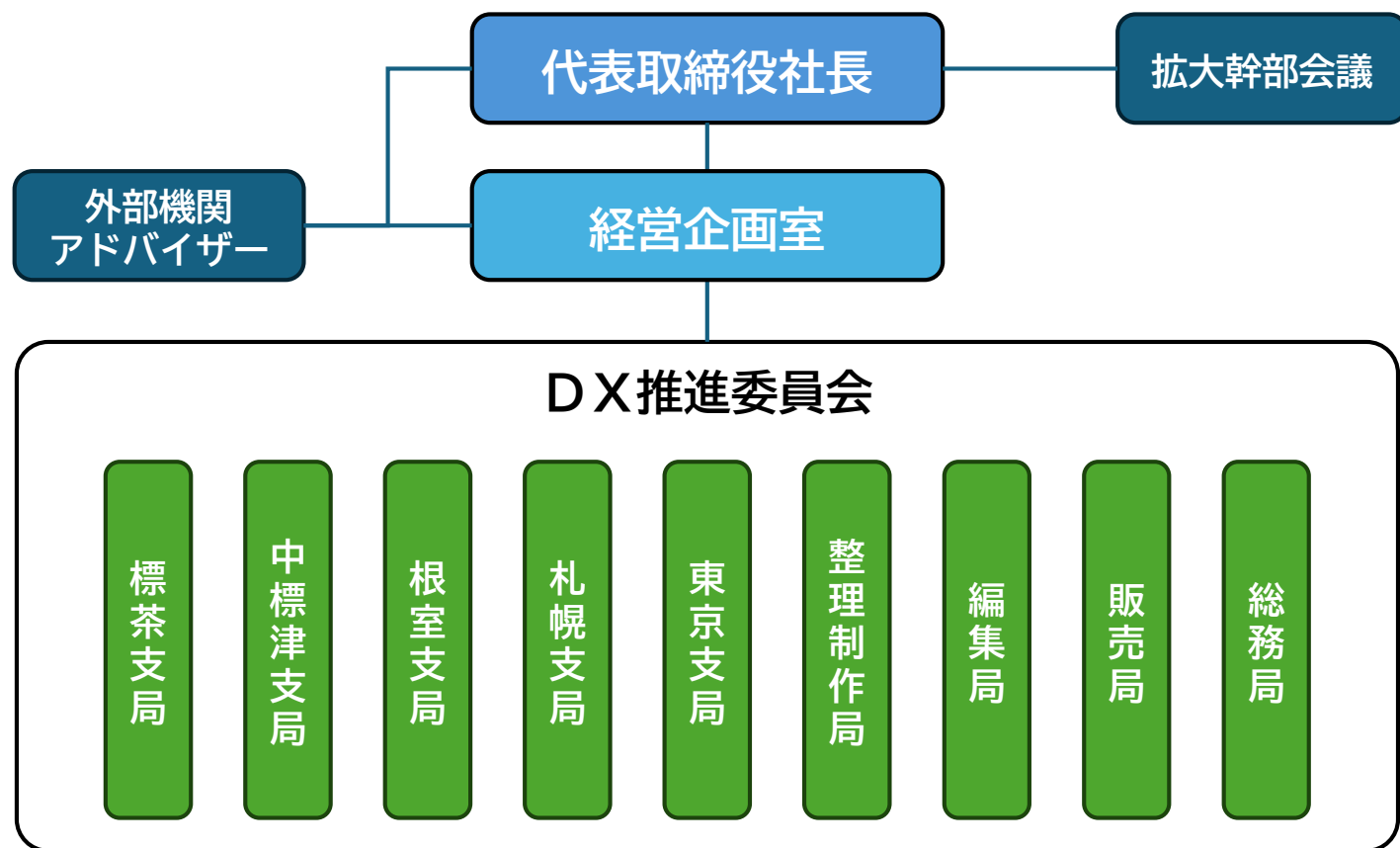
人材育成・教育

地域課題解決型 総合プラットフォーム

地域の情報と人を結ぶ総合プラットフォームを構築する
地域データ・行政・産業・防災・教育を柱とする情報共有サービスを提供する
地域に愛されるデジタルメディアへの変革を目指す

顧客・地域 パートナー連携

D X推進体制



- 社長直轄の経営企画室のもとに、各局から1名の委員で委員会を組織化する。
- 委員からテーマ別にコアメンバーを選出し、k検討結果を委員会へ提出することで活性化を図る体制とする。
- 外部機関・アドバイザーより最新テクノロジーの情報収集や利活用にかかわる支援を受ける。
- 各種戦略をPDCAサイクルで管理する。
- 経営企画室は、その活動内容や実績を外部へ発信する役割も受け持つ。
- IT系資格取得を組織として支援、人材の育成につなげる。
- 職種別勉強会等を実施、リテラシー向上を図る。
- 自社の取組みを積極的に外部発信することで、デジタル人材の確保につなげる。

実現に向けた環境整備

編集・発信体制の再構築

- ・ CMS（コンテンツマネジメントシステム）の活用によりデジタル編集体制を拡充し、効果の可視化とワンソース・マルチユースを実現する
- ・ 生成A I等の最新技術と連携させることで生産性の向上とコンテンツ価値を最大化する
- ・ A I－OCR等の技術を活用し、記事情報資産のデジタル化、その再利用を図る

収益モデルの変革

- ・ アドネットワークによる多媒体への広告配信体制を構築する
- ・ 生成A I＋アーカイブデータによる新たなサービスを検討し、収益性のあるコンテンツを創造する
- ・ アクセス解析・行動分析ツールにより効果の検証を行い、素早い改善施策につなげる

デジタル化自動化の推進

- ・ 会計処理・勤怠管理等バックオフィス業務のペーパーレス化を推進する
- ・ A I－OCR・RPAによるルーティンワークの自動化を進める
- ・ A Iエージェントの活用検討を開始する

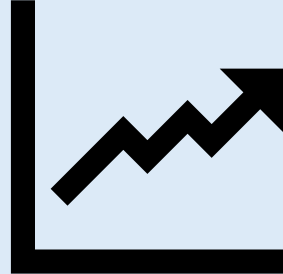
人材育成・教育

- ・ 生成A I等利用技術習得のための職種別勉強会の実施
- ・ 外部支援者・支援組織を有効に活用する
- ・ 社内情報共有ツールを活用し、社員をニュースソース化することで参画意識と組織の活性化を図る

顧客・地域パートナー連携

- ・ 地域課題解決型総合プラットフォーム構築に向けて、対象機関・組織・購読者と対話できるセキュアなコミュニケーションツールを活用し、関係性の強化を図る
- ・ このツールを利用して、読者を「受け手」から「参加者」へ変えることで地域課題を共有し、解決の場としてプラットフォームを目指す

戦略実現に向けての評価指標

	評価項目	指 標	評価基準
1	紙とデジタル ハイブリッド体制の推進	電子版契約者比率	 公開しておりません
2	広告料収入の構成	デジタル広告比率	
3	社員のデジタルスキルアップ	デジタルメディア 利用頻度	
4	バックオフィス効率アップ	関連事務工数	
5	若年層・区域外購読者の獲得	対象購読者数	

D X戦略推進に向けて

釧路新聞社は「郷土ありて われあり」の社是のもと、地域の声を新聞媒体を中心に伝えてきました。
しかし、デジタル技術の進歩と普及により、時代に合った情報伝達方法により、いっそう質の高い、地域にとって役に立つ情報を発信していかなければいけません。
また、地域の課題解決になるべくオピニオンリーダーとして役割も求められています。
新しい時代に即した新聞をデジタル技術を生かして構築していきます。

株式会社釧路新聞社
代表取締役 星 匠